

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
防府市	上右田・下右田地区 (和田峪、田の口、沖田の口、唐臼、新町、上河原、塚原、片山一、片山二、右田市下、芝生)	令和3年3月	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	144.6ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	95.7ha
③地区内における71才以上の農業者の耕作面積の合計	52.3ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	15.8ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	2.7ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	62.6ha
(備考)	

2 対象地区の課題

<p>(共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、地区の更なる高齢化、後継者不足が見込まれ、不作付地の増加が見込まれる。 ・中心経営体の高齢化が進むことから、新たな担い手の確保が必要である。 ・昭和26年に整備した水路や、ファブリダムなどをはじめとしたインフラ設備が老朽化している。 ・山側の水田で水管理が困難な箇所がある。 ・農業機械の更新を契機とした農業離れが進んでいる。 ・行政や関係機関からの情報が伝わってこない。 ・ほ場下層に盤がなく漏水が激しいために収量が上がらない。 <p>(上右田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不整形地等のほ場が多く、水路や畦畔からの漏水があり、耕作の条件が良くないため、野菜等の転作が困難である。 <p>(下右田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地の住宅化が進み、農業が行いにくい環境になりつつある。 ・昭和30年頃に整備した畦畔が老朽化している。
--

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<ul style="list-style-type: none"> ・条件の良い農地については荒廃農地にならないように努力していく。 ・ほ場整備を推進し、耕作条件を向上させ集約、集積を図る。 ・上右田地区においては、ほ場整備事業を契機とし、集落営農法人を立ち上げることにより、既存の担い手では耕作しきれない部分を、集落営農法人を中心に集積、集約化していく。 ・地域で集約化等に関する機運や意識を醸成する。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

貸付け等の意向が確認された農地は、23,477㎡となっている。

農地利用は、中心経営体である認定農業者などが担うほか、集落営農法人を立ち上げることにより、既存の担い手では耕作しきれない部分を、集落営農法人を中心に担っていけるよう準備を進める。

中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、農地中間管理機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。

ほ場整備事業に併せて、防災対策を行っていく。

水稻だけでなく、麦や大豆等の作付けにも取り組んでいく。

保全会で電気柵等を設置し、鳥獣被害対策を引続き行っていく。

定期的に地域での話し合いの場を持つ。

5 中心経営体

12経営体

① 現状の経営面積 34.62ha

② 今後の農地引受の引受けの意向 97.24ha

(地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計①-② 62.62ha)